



一隅を照らす運動総本部だより
No. 69



一隅を照らす運動ホームページアドレス
<https://ichigu.net>





一隅を照らす運動会長

浦井正明大僧正 ご遷化

令和七年三月六日、一隅を照らす運動会長の浦井正明大僧正が世寿八十九歳にてご遷化されました。浦井会長は、平成二十二年五月二十七日に一隅を照らす運動理事にご就任されて以来、令和二年七月八日には一隅を照らす運動副会長、令和六年一月二十二日には一隅を照らす運動会長と歴任され、永きに亘り運動推進にご尽力くださいました。

なお、密葬儀は令和七年三月十四日、本葬儀は同年五月九日に寛永寺輪王殿にて執り行われました。謹んでご報告申し上げます。

令和六年能登半島 災害義援金の現状とご報告

一隅を照らす運動総本部「地球救援事務局」では、令和六年能登半島地震災害に際し、緊急救援募金を実施。また、同年九月能登半島大雨災害におきましては地震災害と併わせて指定寄付として募金をお預かりしておりました。

これまでにご協力いただきました募金総額は、六千二百三十四万三千四百二十一円（令和七年三月末現在）と大変多くの真心こもる浄財をお寄せいただいております。篤く御礼申し上げます。現在も指定寄付として受付をいたしております。また、前回の報告以降、左記の通り被災地域へ寄託いたしましたのでご報告いたします。

・日本ユネスコ協会連盟 九百五十万円
※令和六年七月以降の寄託先となります。

一隅を照らす運動推進大会

群馬教区

群馬教区本部（三浦祐俊教区本部長）では、令和七年三月六日から七日にかけて、群馬県渋川市の伊香保温泉ホテル木暮を会



場に、一隅を照らす運動群馬教区本部年次大会を開催。二百四十五名が参加した。

開会式では、三浦教区本部長導師による法楽と挨拶が行われた。続いて来賓による挨拶や、原徳明天台宗参務社会部長による祝辞が述べられた。

次に、第一講では荒樋勝善一隅を照らす運動総本部長による「天台宗一隅を照らす運動の基

本方針及び推進事業について」、第二講では大須賀亮照群馬教区本部北群馬部法峰寺支部長による「一隅を照らす運動支部活動事業報告」の講義が行われた。また夜の懇

親会は、各支部の活動について情報交換の機会となった。

三岐教区

三岐教区本部（森喜良教区本部長）では、令和七年五月十四日に三重県四日市市にある観音寺（三重二部）にお



いて、二十六名が参加して一隅を照らす運動推進大会が開催された。同教区では、三重県、岐阜県内寺院にて交互に大会を担当し、教区役職員と部内寺院住職及び檀信徒を対象に実施することになっている。

はじめに、教区役職員と部内の住職出仕のもと、観

音寺住職吉田眞圓師を導師に法楽が行われた。続いて荒樋勝善一隅を照らす運動総本部長と森教区本部長による挨拶があった。

この日、岡出とよ子氏による「特攻兵士の魂の叫び」特攻兵士と暮らした五歳の私」と題した講演がなされる予定であったが、ご本人が体調不良により欠席されたため、吉田観音寺住職による代読で、特攻隊として戦地に飛び立った兵士たちの辞世の言葉と思いが語られた。

一隅を照らす運動ニュース

◎インド・禅定林開創三十八周年法要およびパンニャ・メッタ協会（PMS）活動視察

令和七年二月五日から十日の日程で、荒



樋勝善一隅を照らす運動総本部長がインド共和国を訪問し、インド・禅定林開創三十八周年法要等への臨席およびパンニャ・メッタ協会の活動を視察した。

二月八日にインド・禅定林（サンガラトナ・法天・マナケ住職）にて行われた記念法要ではインド各地より集まった二十万人を超える人々が参座した。記念式典では、孤児院「パンニャ・メッタ子どもの家」に対する支援金目録を荒樋総本部長からサンガラトナ師に手渡した。また、この日は思いがけず、パンニャ・メッタユースから荒樋総本部長に救済協力金を手渡された。この協力金は、ユースメンバーや子どもの家の子どもたちが一食を捧げ、あるいは僅かなお小遣いから出し合って総本部に寄託したもの。



インド・禅定林は令和九年二月に開創四十周年ならびに大本堂建立二十周年を迎える。一隅を照らす運動総本部では、地球救済事業の一環となる教育里親支援制度を通じて、教育支援に携わり次代を担う子どもたちが禅定林からインド国内、世界の一隅を照らす人材となるよう、今後も活動に協力していく。



地球救援事業支援先

令和六年度 総額 3535万1193円

(令和七年三月三十一日まで)

○主な支援内容(支援先)

世界児童福祉支援(日本ユニセフ協会)	200万円
ニューライフプロジェクト支援(ドウアン・プラティープ財団)	100万円
パンニャ・メッタ子どもの家支援(パンニャ・メッタ協会)	100万円
NHK国内救援(NHK歳末たすけあい)	65万4607円
NHK海外救援(NHK海外たすけあい)	50万円
令和六年度公益目的事業協力金	
(世界宗教者平和会議日本委員会)	30万円
活動支援金(聖エジディオ共同体)	30万円
活動支援金(レンアルン暁プロジェクト)	20万円
教育支援活動協力(シーカー・アジア財団)	10万円
盲導犬育成支援(関西盲導犬協会)	10万円
会員継続(仏教NGOネットワーク)	3万円
会員継続(AMDA)	3万円
団体会費(ベシヤール会)	3万円
団体会費(こどもソーシャルワークセンター)	1万円
賛助会員入会・年会費(慈悲の学校「啐啄塾」)	8000円
活動支援金(国際地雷処理・地域復興支援の会)	10万円
令和六年度共同募金(滋賀県)	5000円
インド国内巡回医療活動助成金(パンニャ・メッタ協会)	200万円

■指定寄付

教育里親育英金(ドウアン・プラティープ財団)	75万円
教育里親育英金(パンニャ・メッタ協会)	39万円
里親里子奨学支援金(ドウアン・プラティープ財団)	
教育支援(ドウアン・プラティープ財団)	19万3000円
教育支援(パンニャ・メッタ協会)	100万円
活動支援金(パンニャメッタ協会)	100万円
令和六年台風第十号災害義援金(宮崎県宮崎市)	6万6549円
ウクライナ人道危機救援支援金(日本赤十字社)	5万9149円
二〇二四年台湾東部沖地震救援金(日本赤十字社)	1万3064円
二〇二五年中国・チベット自治区地震災害義援金	21万6166円
(チベットハウス・ジャパン)	9万5658円
■災害支援	
令和六年能登半島地震災害義援金(石川県珠洲市)	1000万円
令和六年能登半島地震災害子ども教育支援金	
(日本ユネスコ協会連盟)	950万円
令和六年七月二十五日から大雨災害義援金(秋田県)	20万円
令和六年七月二十五日から大雨災害義援金(山形県)	20万円
二〇二四年台湾東部沖地震救援金(日本赤十字社)	300万円
令和七年大船渡市赤崎町林野火災義援金(日本赤十字社)	30万円



令和六年度 百萬巻写経志納者 二四八三巻 (教区順・敬称略)

【一般】	足立 光男 二二巻	安達 優子 一卷	池田 幸子 二巻	小川 康夫 三巻	恩田 知己 三巻
	片ヶ瀬美知子 一卷	加藤 悟 四巻	加藤 理恵 六巻	川道 咲恵 二巻	川島由美子 三巻
【福島】	川上 洋子 二巻	菊池 妙 一卷	菊池 泰久 一卷	木村 春奈 一卷	齋藤由美子 五巻
	坂田祐里子 二巻	佐藤 榮子 一卷	佐藤 友美 一一巻	芝本 和典 六巻	清水 厚子 一〇一卷
【栃木】	白石 義晃 二巻	新家真以子 一一巻	鈴木奈津子 八巻	左右田武子 一二巻	曾根 健生 五巻
	空地 秀晃 一卷	高田 智子 九巻	高橋 美晴 二巻	武内 公子 一卷	谷久保佳子 一二巻
【茨城】	田村 誠 一卷	津田 和久 一卷	富江 美佳 七巻	中井 敬 五巻	中沢あつ子 一卷
	中島 基浩 一卷	長田 典之 七巻	中村 恵子 三巻	西村 進也 一卷	藤原 龍二 五巻
【群馬】	堀井 昌子 二四巻	正岡 宏之一巻	宮下 稚子 三巻	目片 正友 三六巻	森内 朋子 五巻
	山城 篤男 一卷	山野辺 博 二巻	山本 一馬 二巻	横田 敏功 九巻	横山麻里子 一卷
【東京都】	吉田 武司 一卷	六角 守末 二〇巻	鷺田 雅代 三四巻		
	教区本部 八〇巻	黒谷教喜教会心行寺 一〇巻			
【兵庫】	福田寺 二巻	極樂寺 三巻	法持院 二巻	薬王院 二巻	鳳凰寺 一卷
	地藏院 二巻	西岸寺 二巻	普光寺 一卷	光福寺 一卷	悟真院 二巻
【岡山】	應聖寺 一卷	観音寺(西治) 二巻	観音寺(奥) 二巻	龍音寺 二巻	八葉寺 二巻
	正明寺 四巻	如意輪寺 九〇巻	彌勒寺 五巻	蓮華寺 五五巻	
【東海】	神護寺 一〇〇巻	新龍寺 一二巻			
	瀧山寺 五〇巻	浄土寺 一五巻			
【神奈川】	東圓寺 一〇巻				
	永安寺 九六巻	大盛寺 九〇巻	寶積寺 三巻		
【東京】	安樂寺 一五巻				
	文殊寺 二五巻	報恩寺 二五巻	來迎寺 四〇三巻	徳星寺 五五巻	
【埼玉】	壽延寺 一〇巻	珊瑚寺 六五巻	昌樂寺 一〇巻	大徳寺 二〇巻	最勝寺 一八巻
	薬王寺(古河市) 九九巻				
【栃木】	観明寺 二〇巻	惣宗寺 一〇七巻			
	教区本部 三六三巻				
【福島】					

【陸奥】

延壽院	五卷	満願寺	五卷	光圓寺	一一卷	光禪寺	一〇卷	賢聖院	五卷
善入院	五卷	東雲寺	五卷	觀音寺	五卷	岩藏寺	五卷	藤田寺	五卷
永清寺	五卷	松本坊	五卷	大聖寺	五卷	萬寶院	五卷	法泉寺	五卷
黒石寺	五卷	千手院(盛岡市)	五卷	勝軍寺	五卷	利生院	五卷	毛越寺	五卷
千手院(西磐井郡)	五卷			慈光院	五卷	普賢院	五卷	寶積院	五卷
大乘院	五卷	福昌院	五卷	覺性院	五卷	藥王院	五卷	自性院	五卷
達谷西光寺	五卷	正覺院	三卷	妙法山歆喜院	五卷	藥王院	五卷	蓮乘院	五卷
浄土寺	五卷	明光寺	五卷						

◆教育里親制度支援者(教区順・敬称略)

令和六年度新規支援者

○継続支援(五年間の支援)

【九州西】地蔵院 天津秀道

○一括支援

【茨城】千福寺 小川晃史

○一時支援(継続、一括以外の支援)

【一般】

青木 忠昭	伊東 幸枝	木島佳代子	工藤 秀丸	佐藤 光一	笹部 和男	田中 常隆	波多 米子
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

【群馬】

【陸奥】

萩庭 寿山	星野江津子	松岡 良訓	村山 光永	山本 一馬	横田 敏功	正善寺	延壽院 山本峰聖
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-----	----------

里親里子奨学金 令和六年度新規支援者

○一括支援

幼稚園 豊岡利英子

◆令和六年度地球救援募金のご協力者名簿（教区順・敬称略）

●一般

心のつどい in 比叡山参加者
檀信徒祖山参拝研修会参加者
天台宗人権啓発公開講座参加者
天台青少年比叡山の集い参加者
全国一斉托鉢 JR 比叡山坂本駅前托鉢浄財
全国一斉托鉢 京阪坂本比叡山口駅前托鉢浄財
株式会社桜井デザイン
アユミ電工有限公司
駒込学園
観山学院
比叡山高校実践仏教
比叡山中学校ボランティア委員会
天台宗恩常金一隅会
天台仏教青年連盟
パンニヤ・メッタ・サンガユース
犬塚みゆき 奥村恵弘 小倉 薫
衣笠信広 小林正伸 サワヤスオミ
高橋 昭 高橋紀美子 中川豊俊
細久保昭二 村山光永 山田忠美
山本一馬 山本泰子
匿名希望一名

●延暦寺一山

延暦寺戸別托鉢浄財

泰門庵

●滋賀

教区托鉢浄財

●京都

教区托鉢浄財

○第一部

法輪院

○第五部

三千院托鉢浄財

●近畿

教区托鉢浄財

●兵庫

教区寺院婦人会

第一部托鉢浄財

第二部「多紀観山講」托鉢浄財

第三部檀信徒会托鉢浄財

第四部托鉢浄財

第六部托鉢浄財

○第一部

部画大会浄財

来迎寺一隅の会

○第四部

昌樂寺

○第六部

蓮華寺

●岡山

教区托鉢浄財

第一部托鉢浄財

第四部托鉢浄財

○第五部

永案寺

観音寺

●山陰

第一部托鉢浄財

第二部托鉢浄財

○第一部

三徳山山内寺院托鉢浄財

●四国

第一部托鉢浄財

●九州

一隅大会浄財

●九州西

教区部托鉢浄財

●九州東

筑前部托鉢浄財

柳川部托鉢浄財

肥前東部・西部托鉢浄財

熊本部

相良寺

●三岐

一隅大会浄財

教区托鉢浄財

●東海

一隅大会浄財

教区托鉢浄財

○第一部

日輪寺

○第四部

成願寺

○非法人

明光院

●信越

伊那部托鉢浄財

一隅大会浄財

伊那部一隅部画大会浄財

●神奈川

一隅大会浄財

教区托鉢浄財

●東京

教区托鉢浄財

教区托鉢浄財

○第三部

寒松院

○第五部

永安寺

○第七部

玉泉寺

玉泉寺檀信徒会

●北総

教区托鉢浄財

○千葉部

千手院

●南総

教区托鉢浄財

●埼玉

一隅大会浄財

教区仏教青年会托鉢浄財

●群馬

一隅大会浄財

南前橋部托鉢浄財

北前橋部托鉢浄財

西前橋部托鉢浄財

高崎部托鉢浄財

富岡多野部托鉢浄財

北群馬部托鉢浄財

沼田部托鉢浄財

桐生部托鉢浄財

東前橋部托鉢浄財

伊勢崎部托鉢浄財

世良田部托鉢浄財

下仁田部托鉢浄財

西群馬部托鉢浄財

○西前橋部

光巖寺

正法寺

妙音寺

○非法人

心月院托鉢浄財

●茨城

教区本部

一隅大会浄財

教区托鉢浄財

歳末たすけあい募

金浄財

●福島

教区本部

教区托鉢浄財

●陸奥

第二部檀信徒会

●山形

教区托鉢浄財

〈指定寄付〉

令和六年台風十号災害義援金

●信越

教区仏教青年会托鉢浄財

パンニャ・メッタ子どもの家

●近畿

教区本部

ウクライナ人道危機救援募金

●東海

慈妙院

慈妙院動物霊園

二〇二四年台湾東部沖地震救援金

●一般

津田治子

東郷隆允

山口 勉

●信越

教区仏教青年会托鉢浄財

二〇二五年中国・チベット自治区地震災害義援金

●信越

教区本部托鉢浄財

東日本大震災義援金

●玄清

○非法人

大学院

ユニセフ募金

匿名希望一名

トルコ・シリア地震災害義援金

匿名希望一名

SNS並びにインターネットによる情報発信について

天台宗務庁総務部

現代社会では個人や法人、団体等、様々な発信元からFacebook（フェイスブック）やX（エックス）、Instagram（インスタグラム）などに代表されるSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）や、YouTube（ユーチューブ）といった動画サイト等を利用することにより、情報発信が可能となりました。

インターネットを使った情報発信は、手軽なだけではなく強力な発信力や拡散力を持つために、我々天台宗や各寺院・教師等も布教活動の手段として活用すべきです。

しかし、たとえ個人としての発信であっても、天台宗僧侶であることを忘れることなく、その内容は客観的に受け取り手側の感情を十分に想像した上での発信が求められていることは言うまでもありません。

また、SNS等の強力な情報伝達手段は便利な反面、情報が不特定多数に拡散、改ざんされる恐れもあり、不用意な書き込みや画像、動画等が拡散されることにより、様々な誤解や問題を引き起こす可能性があります。

本宗においても僧侶という自覚や品格に欠けた投稿や出演があるという報告を受けております。インターネット等への不適切な情報の開示やメディアへの露出は、天台宗の名誉や品位を損なうことに繋がり、ひいては仏教界全体や宗教者の信用を毀損する大きな問題となります。情報発信の際には、その情報が広がることに起因するトラブル回避に努めなければなりません。

そこで、下記の3項目を基本的なガイドラインとして天台宗僧侶に告知いたします。

「SNS並びにインターネットによる情報発信」に潜む危険性を十分に認識し、情報発信に際してはご注意の上、日々の布教活動に活用していただきますようお願いいたします。

記

1. 天台宗や列祖の名誉や尊厳を損なうような言動・発信をしない
2. 天台宗僧侶としての品位や信用を毀損するような情報を公開したり、言動・発信をしない
3. 情報発信をする上での一般論として
 - ①公序良俗に反する書き込みをしない
 - ②誹謗中傷等、誤解されることを書かない
 - ③他人の写真や動画を許可なく掲載しない（引用などは必ず文献やURLを示す）

以 上

発信連絡先

天台宗務庁総務部総務課

TEL 077-579-0022

FAX 077-578-4814